

年 頭 所 感

愛知県技術士会代表幹事 内田 貞武

早いもので正月もあっという間に過ぎ早1ヶ月、先生方皆様には普段の生活に戻られ、益々ご健勝でご活躍のことと存じます。

日頃は愛知県技術士会の諸活動にご協力とご理解を賜り真に有難うございます。

さて、年頭に当り愛知県技術士会の今年度の活動や会員皆様へのお願いについて、以下に述べさせていただきます。

1. 全国大会等へのご協力に感謝

昨年はビッグイベントとして中部支部主催で日本技術士会全国大会が9月24日～27日まで岐阜・長良川国際会議場で行われました。前田支部長・渡辺副支部長を中心に大会運営され、立派な全国大会になったと大変好評を戴きました。

愛知県からは特に山田・間瀬先生を始めとして若手の先生方が大変な貢献をされました。又、愛知県技術士会の先生方の積極的な参加を戴き、成功裡に終わったことを、改めて感謝申し上げます。

併せて、愛知県技術士会主催の各種例会も例年以上に参加者も多く、活発であったことこの場をお借りして御礼申し上げます。

2. 愛知県例会への積極的参加

今年度、愛知県技術士会では総会・研究発表会・講演会・工場見学会と例会を5回開催しております。特に、この2月22日(土)には「ふれあい技術士プラザ」と銘をうって『技術士の海外業務進出』をテーマとした今年度最後の例

会を開催します。

極めて興味深い時期を得た内容であり、世話役の加藤・宮島先生を中心に企画が進んでいますので、是非奮ってご参加下さい。

又、今後も知恵を絞った内容のある例会となるよう先生方皆様の積極的なご提案や参加をお待ちしております。

3. 中部支部活動との連携強化

現在、大変な貢献をされている前田支部長の任期満了に伴い、この4月からの新年度の支部体制は大幅に変更になる予定です。まだ非公式の段階ですが、新支部長には辻先生が就任される路線が引かれております。(5月の支部総会で正式となります)

今後、中部支部を支える基幹組織である愛知県技術士会の役割は、人的にも体制的にも益々重要度を増すものと思われま

す。特に、CPD活動では、例会などの開催でそれぞれが重複して実施するのではなく、お互いに協力し合い、会員にもっと有意義な内容となるよう連携していく必要があり、又、支部活動全般を愛知県がもっと支えていく必要があると感じております。

今後、本件の具体化を目指して実施することに、先生方皆様のご協力とご理解を得たいものと思

4. 新しいWG活動の立上げ

現在、愛知県技術士会のワーキンググループにはISO14001、HACCP及びインターネットの3グループが活動中

です。是非、新年度は有志の先生方により新しいワーキンググループが立ち上がることを念願しております。

「海外技術支援業務」「建設環境」等のテーマで、興味をお持ちの先生方が集まり、WGの活動を通じて有志の先生方による緩やかなグループが出来、更に仕事の面で実践活動に展開出来ることを期待しております。

5. 会報への寄稿のお願い

事務局をご担当願っている間瀬・山田・西脇先生のご尽力で2ヶ月に1回会報を発行しております。

毎回の原稿集めには担当の先生方も苦労しておりますので、どんなテーマでもかまいませんので是非寄稿をお願い申し上げます。

6. 新入会員を積極的に勧誘

愛知県技術士会に加入の先生は現在約140名で、会員数は相変わらず、ここ数年横這い状態が続いております。

今年は、愛知県技術士会として、更に新入会員の勧誘を積極的に実施します。

既にお願している通り、先生方にもおかれなくても、身近に加入されそうな技術士会会員がいらっしゃれば、是非お誘い戴くよう重ねてお願い申し上げます。

愛知県技術士会の運営が一層活発となるよう、今年も幹事一同力をあわせて努力しますので、会員の先生方におかれましても、よろしくご協力とご支援の程お願い申し上げます。

最後に、本年も先生方の益々のご活躍とご家族揃ってのご健勝を祈念しております。

以上

「中国訪問紀」 1

間瀬雅彦（総技監/建設）

昨年、11月4日から11月10日までの7日間、西安建築科技大学および敦煌市林業局を訪問してきました。訪中の主たる目的は、一昨年から実施している西安建築科技大学との技術交流、小学校での環境教育、加えて、中国大陸西北地域（甘粛省敦煌市周辺）の自然環境を視察することでした。

参加メンバーは一昨年一緒に訪中した、堀与志男さん（総技監/建設）と西脇正倫さん（建設）。初参加の坂口和保さん（建設）、それに通訳をお願いしました呉農さんの5人です。

通訳の呉農さんは、西安建築科技大学OBで現在、愛知県技術士会幹事である山田厚志さんが経営する(株)山田組の社員でもあります。訪中に際しては何かと面倒を見ていただきました。この場をお借りしまして呉農さん、山田厚志さんに御礼を申し上げます。

さて、折角、中国に行ってきたのだから、何かの形で私たちが直接見聞きした生の中国情報を伝え、多くの仲間を集い、今後も継続して中国を訪問し、中国と日本の技術交流を深めることができたら良いと考えています。

愛知県技術士会会報の場を借り、今回から全6回を目安に西脇と間瀬で、「中国訪問紀」と題してお伝えしたいと思います。

1. 西安市と西安建築科技大学

西安建築科技大学がある西安市は、その昔、長安と呼ばれていた都で、人口が約700万人（市内人口は約300万人）の大都会です。玄宗皇帝と楊貴妃とのロマンス、三蔵法師が天竺への出発点とした西門や天竺より持ち帰った経典を納めた大雁塔など、歴史上の重要な人物や

建造物がたくさんある、中国でも有数の歴史と文化を誇る街です。

そんな古都に相応しい、伝統を持つ、西安建築科技大学は建設系の学部を主体に学生数2万人を有する総合大学です。

中国では日本の大学の学部に対応する部署を学院と表現します。今回、私たちが訪問したのは環境与市工程学院で日本では衛生工学に相当する学部です。院長(学部長)は王先生で、一昨年、9月に訪問した際、来年も技術交流会を実施しましょう。と言って下さった方です。王先生は日本へ留学の経験もあり、日本語が堪能で、私たちとのコミュニケーションは全て日本語で対応していただけます。

その王先生の計らいで大学構内にある迎賓館に宿泊をさせて戴き、学生たちとの懇談会も迎賓館内にある会議室を利用させていただきました。迎賓館での宿泊費は一人一室、一泊あたり日本円で1,500円ほどです。この迎賓館に最初の2日間と敦煌市から戻った最終日の1日、合計3日間、宿泊したのですが、その経費は全部で5,000円弱でしたので日本のビジネスホテルと比べてみても随分経済的であることがお判りいただけるかと思えます。ちなみに、食費は更に経済的です。想像を絶する安さです。一般的な観光ツアーで行く、高級レストランでもその値段の安さに驚くこと然りですが、通常の観光ルートではない、一般の市民が食事する食堂はどんなに腹いっぱい食べても、数百円単位です。中国の経済成長のエネルギーはこの安い物価とハングリー精神がなせる技であることを痛感した次第です。

2. 学生たちとの交流

今回の主目的のひとつは、学生たちとの懇談会にあります。懇談会の目的は経済発展と地球

環境保全をどのように考えていったらよいのか?について意見交換をすることです。

今、中国は物凄い勢いで経済発展がなされています。私たちが訪問した西安市も例外でなく、街のあちこちで高層ビルが建設されています。紀元前からの歴史を持つ古い都が、日に日に姿を変えていっています。街中はスモッグと砂埃で300m先は霞んで見えません。想像を絶する環境下にあります。それでも、明日の先進国を夢みて、皆が一丸となって突き進んでいます。

かつて、我が国もそうであったように、ひたすら経済発展のみを追及しています。公害問題が全く問われていない訳ではありませんが、今の日本とは比べ物にならない内容です。

そこで、私たちからは現在の地球環境がどのような状況となっているのか?日本が経済成長を遂げると同時に起こして来た、公害問題について話題を提供して来ました。水俣病がどんなに悲惨なものであるか、経済発展の裏面で、どれだけの自然が破壊されたのか。本当の豊かさとは決して経済的に豊かになるだけではない。環境が保全されて、初めて豊かさを感じ取ることができる。そんな実情を説明してきました。

学生たちの反応は、私たちの意見に、理解を示し、熱心に耳を傾けてくれるのですが、現実、今日の生活が満たされていないので話として理解はできるが、実行するとなると多くの問題がある。とする意見が圧倒的でありました。

先進国としてのエゴではありませんが、今日の中国が与える環境への影響は中国だけの問題でないことは彼等も理解を示しています。彼等は、これからの中国をリードする学生たちです。彼等と共に、地球環境を考え、経済成長と環境保全が必ずしも反比例しない。そんな国づくりに貢献できたらと考えています。(つづく)

「広場・湖海の土」 16

遺伝子組み替え技術

前川文男(農業・農芸化学)

私の大学卒業当時、1960年代に起こった感動的な横綱級の出来事として、1962年のワトソンとクリックによるDNA(デオキシリボ核酸)の構造決定によるノーベル賞の受賞と1969年、アポロ11号の月面着陸の成功が挙げられます。アームストロング飛行士の「人類のささやかな第一歩だ、しかし人類が大きく飛躍する第一歩だ」という月面からの音声と月での作業や星条旗を立てる映像が、今でも鮮明に思い起こされます。当時、このアポロ11号帰還までの一切のスケジュールが最先端技術のコンピューターで制御されていたことに感嘆させられると共に、宇宙へのロマンと力強い人類の発展が感じられたものでした。そしてその技術は、通信衛星やインターネットの普及やIT関連ビジネスへと展開し、人類への広範囲の貢献をしてきたと思われま

す。一方、DNAの構造は既に1953年に、糖とリン酸と糖の結合が繰り返され、その糖に4種の塩基の何れか一つがついて、らせん状に巻いていることが明らかにされていましたが、1962年のワトソンとクリックのノーベル賞受賞で、再度、その美しい分子模型が、マスコミや科学技術雑誌に取り上げられ、20世紀最大の発見の一つとしてクローズアップされました。このような単純な化学物質の塩基の組み合わせが設計図(指令書)となって生物固有の体が作られるのかと思うと、その発見の偉大さに驚嘆させられたものでした。

その後もDNA関連の生物研究は、発展を続け、20世紀末になって組替えDNA技術を活

用した遺伝子治療や遺伝子組み替え作物などの問題が一気に表面化した感があります。遺伝子組み替え医薬品は、遺伝子組み替え食品と同様に体内に取り込まれるのですが、患者にとってメリットが多いために余り反対運動もなく受け入れられているようです。

遺伝子組み替え作物は、近い将来起こるであろうと危惧されている食料危機を回避する為に、農業生産性向上に貢献する作物(害虫や除草剤や塩害に強い性質を持つ)として大きな期待が寄せられており、また、農業による環境汚染の問題も同時に解決できる可能性があるとして期待されていたのですが、こちらの方は消費者より農業生産者や種子供給メーカーにメリットが多いために、遺伝子組み替え作物(食物)が危険であるという結論がまだ出ていない段階で、人や環境に対して危険であるかのような方向に進んでいるように思われます。日本では消費者が特に、「遺伝子」とつくだけで異常な拒否反応を示し、この分野の研究が大きく後退してしまったような気がします。特に、食べ物に対しては徹底した安全性が要求されるのは、言うまでもありませんが、その本質や経済性(資源の消費の方向)の議論を無視して、理想論のみを主張する消費者活動には懸念を抱く者の一人です。

現在、世界の人口は60億人に達し、20世紀初頭の4倍です。そして、2050年には、89億人に達すると予測されています。国内の主要農産物の自給率が40%を下回った現在、食料一つ取っても問題は山積みしています。昨年末の朝刊に愛知県農業総合試験場が耐農薬性稲の研究を断念したとの記事が小さく掲載されていました。この記事を見て、非常に残念に思っている者の一人です。

(次回は本川英佑先生にお願い致します。)

中部支部春季例会のお知らせ

(新合格者説明会・祝賀会併催)

中部支部では今年度の技術士試験新合格者説明会・祝賀会と併せて「**春季例会**」を下記の通り開催します。

詳細が決定次第、追って支部から案内があると思いますが、愛知県技術士会の皆様にはぜひ早めに予定に加えていただきたく、お知らせいたします。(山田厚志 記)

記

行事：中部支部春季例会

(新合格者説明会・祝賀会併催)

日時：平成 15 年 3 月 29 日(土曜日)

13:30からの予定

場所：名古屋駅前キャッスルプラザホテル

内容：

会各位への最新情報の提供
講演会(CPD)
名古屋大学大学院 柳下正治教授
現在打診中です。
新合格者を交えた懇親会

内容、会費等は計画中です。追って支部からの案内書状でご確認ください。

会 員 移 動 情 報

・ 入会

H14.12.20 田中 功 (機械部門)

H14.12.25 天花寺 稔久(機械部門)

・ 退会

なし

編 集 後 記

昨年来からの懸案事項であった会員の相互連絡体制も愛知県技術士会のメーリングリスト(ML)(ngca@egroups.co.jp)が整備されたことでいよいよ電子化されることになりました。

今月号はそのMLを利用して初めての配信となります。送受信の際、思わぬところでトラブルが発生するかも知れませんが、今後、会員相互の情報交換が素早くできるよう順次改良を加えていきます。何卒、ご理解、ご協力のほどよろしく願いいたします。(間瀬雅彦 記)

1.

MLに未登録の方、あるいはデータの送受信が未整備の会員様には従来通り、郵送によるご案内をいたします

2.

MLに未登録の方で登録希望の方は支部事務局(g-chubu@asahi-net.email.ne.jp)まで送信希望メールアドレスおよび氏名をご連絡ください。

3.

容量の大きなデータは受信できない可能性があるため、当面は写真等の添付はいたしません。